

看護学部卒業生の職場定着の動向 看護学部卒業生の現状調査その2

山下八重子, 三浦 康代, 松岡みどり

看護学部

本学看護学部卒業生の動向調査結果をもとにアンケートの回答者55名(回収率26%)の職場定着の動向について分析を行った。卒業後、最初の職場に留まっている者は55名中36名69%(卒業1年目を除けば60%)であった。2010年の第1期生では既に3か所目の職場が2名で、2014年の卒業生は就業1年未満にもかかわらず、既に2名が2か所目であり定着が悪いことが推察された。しかし、新たな職場に就業する者では「辞めたい」は少なかった。「職場をやめた理由」については記載の無い場合が多かったが「転居・家庭の事情・看護観の違い・体調を崩した・パワハラ・人間関係」が各1名、「結婚・病院の事情」が各2名であった。

最初の職場に留まっている者は奨学金を受けている者が約8割であり、離職しない理由に奨学金返済が理由に含まれていることも推察された。また、勤務する病院の規模が300床以上では、約6割が辞めたいと思ったことがあると答えた。しかし、「現在の仕事に関する意見」には「やりがいを感じる」等の肯定的意見は否定的意見の2倍であった。大規模病院は、はじめは最先端医療で医療現場が厳しい状況で自分が何もできなく無力感や劣等感で離職者が出るが、徐々に仕事ができるようになると自己成長の自覚がやりがいへと繋がっているのではないかと考える。回答者数が少ないため全体像を捉えたとは言えないため、さらに就職先職場へのアンケートを行い離職率の把握、離職理由の把握などを行う必要がある。

看護学部卒業生の看護における行動や考えについての 先行研究との比較 —看護学部卒業生の現状調査 その3—

三浦 康代, 山下 八重, 松岡 みどり

看護学部

本学看護学部5期生までの卒業生に対して、本学での学びの役立ち程度、また現在の仕事における行動や考えについて、先行研究と比較し課題を明らかにすることを目的とした。卒業生動向調査の質問項目である「本学での学びが現在の看護の仕事に役立っている程度」10項目と「現在の看護の仕事における行動や考え」10項目については、先行研究(愛知看護大学卒業生対象のカリキュラム評価調査報告, 2011年)と同様の項目とし、先行研究結果と単純集計で比較を行った。その結果、本学卒業生のほうが先行研究より、「当てはまる」と回答した割合が高い項目として、20項目中、「チームの一員として他職種と協力する」「看護専門職として地域に貢献する」「看護を国際社会レベルで考える」「積極的に先輩などに相談する」「看護の対象や人権やプライバシーが損なわれる、あるいは損なわれそうな時に何らかの行動を起こしている」「認定コースや大学院への進学を考える」の6項目があげられた。本学卒業生は他職種と協力したり、誰かに相談するという割合が多く、人権擁護や地域貢献の気持ちも強く、進学を考えている者の割合も高いことが明らかになった。